

重点取組分野	令和 7 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①授業では目標や評価規準、学習課題を生徒にわかりやすく提示するとともに、確実に力が身に付くように授業展開を工夫する。②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、生徒の実態や意見、学力・学習状況調査のデータ結果を生かしながら、授業改善に努める。③教育DXの研究を進め、GIGA端末やAI型教材等の活用による教育効果を高めている。	①②「問い」を大切にす授業づくりというテーマで、研修計画を実施し、主体的に対話的な学びの実現に向けて、授業改善に取り組んだ。探究的な課題の設定やそのプロセスを踏まえながら、評価についての考え方や様々な意見交流を行うことができた。③GIGA端末を各教科で十二分に活用し、教育活動を行うことができた。継続していきたい。	A
豊かな心	①道徳年間計画に基づき、各学年で特別な教科・道徳の授業を進め、別業を活用して教育活動全体で生徒の豊かな心を育む。②子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、生徒の意見を取り入れることで、いじめの未然防止の取組につなげる。③「PayForward」の考えを柱としながら、一人ひとりの個性を認め合い、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。	①道徳年間計画に基づき、教科で体系的な道徳の実践できた。学年でローテーション道徳を採用するなど、組織として実践を共有・研究する中で、生徒の道徳心を育むことができた②③生徒会を中心とした主体的な生徒の取組のなかで、「Pay Forward」を推進し、信頼と共感の心を育むことができたと考えている。	B
健やかな体	①身体計測・新体力テストの実践を通して自分の体や体力について知り、自らの健康の保持増進や体力の向上につなげる。②心身の健康の保持増進のために教育活動全体を通じて学習できるような教科や特別活動との連携を図る。	①新体力テストの結果から「50m走」「20mシャトルラン」「ハンドボール投げ」で横浜市平均を下回っていることがわかった。走力は忍耐力にもつながり、今後、心の健康につながる指導へとつなげたい。②健康課題を自らの問題として捉え、考察し、学校全体に発信する力を保健委員を中心に取り組んだ。今後は特別活動に位置付けた取組に発展する手立ても検討したい。	C
特別活動	①「Pay Forward」と「Greeting-Day」の二本柱を中心に、生徒の自主性の育成と活動の充実を図る。②生徒会本部と各委員会間の連携をGIGA端末を用いて充実を図り、共同で取り組める活動の充実を図る。	①よりよい中川中学校を目指して、生徒会中心に各委員会や生徒会と協力をPR活動の推進やGreeting-Dayを実施した。②中央委員会、委員会の垣根を超えた議論を行い、学校生活に反映させた。	B
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会が情報を共有し、記録を取り、進捗を管理する。議事録については、毎月全職員に共有し、組織的に見守り体制を整える。また、保護者との共通理解や外部機関との連携を積極的に活用する。②いじめ防止や危機管理の研修を実施し、教職員の知識理解や対応力を高める。	①いじめ防止対策委員会の議事録を全職員に共有し、進捗を学校全体で確認することができた。また、保護者との連絡も密に行い、生徒を見守ることができた。②会議などの際に、全体で事案対応を想定し、危機管理意識を高めることができた。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修及び教育活動、学校運営にかかわる様々な実践やデータを幅広く活用して、すべての職員が目標をもって力を伸ばす。②年度末反省の時期だけでなく、いつでも意見が出せるような場をネットワーク上に作り、大きく変わらなくとも「小さく」「いつでも」改善していけるように体制を整える。	昨年度は会議の時間が長く、勤務時間を超えることが多かった。「より良い会議」を目指して外部から講師を呼んで、研修を実施した。会議の議題を直直し、「ミライム」という掲示板機能がついているアプリを利用といった工夫で会議も大幅に短縮され、会議が情報共有と連携を促進する場となった。	A
特別支援教育	①個別支援学級と特別支援教室、一般級の状況を常に把握・共有し、効果的に生徒の支援を行う。②個々のニーズに対応できるよう、特支Coが中心となって、組織的な支援体制を確立する。③「誰一人取り残さない学校・社会」を実現するため、教職員の研修を実施する。	①担任だけでなく、学年職員や部活動顧問など、情報共有を密に行い、様々な視点から生徒を見取り、支援を行った。②サポート教室については、教員・サークル支援員を中心に様々な教員が関わりながら、生徒の支援を行った。どこでもスタディして、各学年の授業配信や、生徒のニーズに応じて、サポート教室での学習支援も行った。③職員研修を通じて、「誰一人取り残さない学校」の実現に向けて、全員で納得して進むということに対して、研修を積んだ。	A
地域連携	①学校だよりや学校ホームページを通して、学校の様子を伝え、地域の理解と信頼を深めていく。②生徒が地域社会の一員として主体的に活躍できる場を建設的に調整する。また、生徒の参加だけではない地域との連携について検討する。	①地域の方たちに働きかけ、生徒たちが地域の中で活躍する機会を作ることができた。②オープンスクールでは、コミュニティハウスやケアプラザと連携し、行事運営を行った。近隣小学校の児童も参加したため、来校者は昨年度より多くなった。③授業での地域資源の活用について、さらに検討を続ける。	B
生徒支援	①教育相談のアンケートや毎日の健康観察などを活用し、相談活動の充実を図る。②Y-Pアセスメントの実施時期を工夫し、生徒の実態や変容を捉えられるようにする。③生徒指導の研修を実施し、教職員の資質が高められるよう、計画、運営を行う。	①生徒の実態を把握へ繋げていくことができた。教育相談の実施方法を今後検討していきたい。②昨年と同じ時期に実施した。Y-Pアセスメントの結果をさらに有効に活用しているよう工夫した。③計画通りに研修を行うことができた。研修内容を実践につなげて行けるようにする手立ても検討したい。	B
学校運営協議会	①小中ブロックで運営協議会を持つことで、小中一貫教育の充実を図る。②委員と生徒との懇談や行事等への見学を継続しつつ、学校への理解を深めてもらうような内容を工夫する。	①小中ブロックで運営協議会をもち、中学生の実態や成長ぶりを見てもらったことができた。また、3年生のキャリア教育においては委員が生徒と対話した。②学校運営協議会、教職員、生徒が参加し、地域で青少年の健全育成について考え、より良い方向に向けて、話し合う機会となった。	A
ブロック内評価後の気付き	2回の小中授業研究会を実施し、高校種の状況や児童・生徒の様子を観ることができた。また、小中の繋がりを意識して情報交換をすることができた。教科ごとの部会で各小学校の児童の実態や中学校での生徒の姿をもとに、9年間で育てていきたい子どもの具体的な姿を話し合った。その中で、次年度は協議会のメンバーを教科ごとに固定し、年間を通しての指導のポイントと成果を明確にしていけるように工夫する。		
学校関係者評価	授業などの様子から、多くの生徒が落ち着いて学校生活を送っているように見受けられる。また、文化祭・合唱コンクールの様子からも、協働してものごとを成し遂げようとする姿が見られ、また、「自分を語ろう」では自分の言葉で発信する力がついていると感じ、おおむね教育活動が円滑に進んでいるよう受け止めている。教員の自己評価の「健やかな体」については、新体力テストの結果が横浜市平均を下回っていることのみをもって、学校の取組を低く評価することはないのではないかと感じる。教育の質を維持するためにも、人材の確保やエアコン等の環境の整備が早急に整うことが望まれる。		

中期取組目標振り返り	生徒が主役となる学校づくりを進める中で、この中期には生徒の意見や思いをより反映させた取組を各分野で重点化している。習得した知識や技能を日常生活に生かせる汎用性の高い知として身に付けることや、豊かな心の育成を期する「Pay Forward」の精神を柱とした教育活動の伸展、健やかな体を意識した基礎体力の向上など、生徒の主体性を推進する取組がさらに必要だと考えている。キャリア教育の充実を図るうえで、「職業講話」、「職業体験」、「自分を語ろう」など地域との関りをより深めるとともにボランティアに積極的に取り組む姿勢を培う必要性を感じている。
------------	--

重点取組分野	令和 8 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①授業では目標や評価規準、学習課題を生徒にわかりやすく提示するとともに、確実に力が身に付くように授業展開を工夫する。②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、生徒の実態や意見、学力・学習状況調査のデータ結果を生かしながら、授業改善に努める。③教育DXの研究を進め、GIGA端末やAI型教材等の活用による教育効果を高めている。	①道徳年間計画に基づき、各学年で特別な教科・道徳の授業を進め、別業を活用して教育活動全体で生徒の豊かな心を育む。②子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、生徒の意見を取り入れることで、いじめの未然防止の取組につなげる。③「PayForward」の考えを柱としながら、一人ひとりの個性を認め合い、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。	
豊かな心	①道徳年間計画に基づき、各学年で特別な教科・道徳の授業を進め、別業を活用して教育活動全体で生徒の豊かな心を育む。②子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、生徒の意見を取り入れることで、いじめの未然防止の取組につなげる。③「PayForward」の考えを柱としながら、一人ひとりの個性を認め合い、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。	①道徳年間計画に基づき、各学年で特別な教科・道徳の授業を進め、別業を活用して教育活動全体で生徒の豊かな心を育む。②子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、生徒の意見を取り入れることで、いじめの未然防止の取組につなげる。③「Pay Forward」の考えを柱としながら、一人ひとりの個性を認め合い、自分の思いを安心して表現できる学校づくりを行う。	
健やかな体	①身体計測・新体力テストの実践を通して自分の体や体力について知り、自らの健康の保持増進や体力の向上につなげる。②心身の健康の保持増進のために教育活動全体を通じて学習できるような教科や特別活動との連携を図る。	①身体計測・新体力テストの実践を通して自分の体や体力について知り、自らの健康の保持増進や体力の向上につなげる。②心身の健康の保持増進のために教育活動全体を通じて学習できるような教科や特別活動との連携を図る。	
特別活動	①「Pay Forward」と「Greeting-Day」の二本柱を中心に、生徒の自主性の育成と活動の充実を図る。②生徒会本部と各委員会間の連携をGIGA端末を用いて充実を図り、共同で取り組める活動の充実を図る。また中央委員会をより活性化し、生徒の自治的活動を積極的に進めていく。	①「Pay Forward」と「Greeting-Day」の二本柱を中心に、生徒の自主性の育成と活動の充実を図る。②生徒会本部と各委員会間の連携をGIGA端末を用いて充実を図り、共同で取り組める活動の充実を図る。また中央委員会をより活性化し、生徒の自治的活動を積極的に進めていく。	
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会が情報を共有し、記録を取り、進捗を管理する。議事録については、毎月全職員に共有し、組織的に見守り体制を整える。生徒たちの気持ちに寄り添う対応に努める。②いじめ防止や危機管理の研修を実施し、教職員の意識や理解、対応力を高める。	①いじめ防止対策委員会が情報を共有し、記録を取り、進捗を管理する。議事録については、毎月全職員に共有し、組織的に見守り体制を整える。生徒たちの気持ちに寄り添う対応に努める。②いじめ防止や危機管理の研修を実施し、教職員の意識や理解、対応力を高める。	
人材育成・組織運営(働き方)	①「安心・安全」、「授業」が最優先されたバランスの良い教育課程を編成していく。②「働き方改革」の視点から、業務分担の偏りの解消、業務分掌の平準化、組織・会議の合理化を実践する。③年度末反省の時期だけでなく、いつでも意見が出せるような場をネットワーク上に作り、大きく変わらなくとも「小さく」「いつでも」改善していけるように体制を整える。	①「安心・安全」、「授業」が最優先されたバランスの良い教育課程を編成していく。②「働き方改革」の視点から、業務分担の偏りの解消、業務分掌の平準化、組織・会議の合理化を実践する。③年度末反省の時期だけでなく、いつでも意見が出せるような場をネットワーク上に作り、大きく変わらなくとも「小さく」「いつでも」改善していけるように体制を整える。	
特別支援教育	①個別支援学級と特別支援教室、一般級の状況を常に把握・共有するため、アセスメントシートの活用を進める。②様々なニーズに対応できるよう、特支Coが中心となって、組織的な支援を行う。また、学校全体としての取組として深められるよう、情報共有を行う。③「誰一人取り残さない学校・社会」を実現するため、対立を対話で乗り越えるスキルを教員自身が獲得する。	①個別支援学級と特別支援教室、一般級の状況を常に把握・共有するため、アセスメントシートの活用を進める。②様々なニーズに対応できるよう、特支Coが中心となって、組織的な支援を行う。また、学校全体としての取組として深められるよう、情報共有を行う。③「誰一人取り残さない学校・社会」を実現するため、対立を対話で乗り越えるスキルを教員自身が獲得する。	
地域連携	①学校だよりや学校ホームページを通して、学校の様子を伝え、地域の理解と信頼を深めていく。②生徒が地域社会の一員として主体的に活躍できる場を建設的に調整する。また、授業などを通して、地域と連携できないか検討する。	①学校だよりや学校ホームページを通して、学校の様子を伝え、地域の理解と信頼を深めていく。②生徒が地域社会の一員として主体的に活躍できる場を建設的に調整する。また、授業などを通して、地域と連携できないか検討する。	
生徒支援	①教育相談や毎日の健康観察、Y-Pアセスメントなどを活用し生徒の実態や変容を捉え、指導・支援へ繋げていく。②全教職員がより組織的に動いていけるように、研修等を計画・運営する。③生徒主体で学校生活をより良くしていけるように、生活委員会の活動を活性化させる。	①教育相談や毎日の健康観察、Y-Pアセスメントなどを活用し生徒の実態や変容を捉え、指導・支援へ繋げていく。②全教職員がより組織的に動いていけるように、研修等を計画・運営する。③生徒主体で学校生活をより良くしていけるように、生活委員会の活動を活性化させる。	
学校運営協議会	①小中ブロックで運営協議会を持つことで、小中一貫教育の充実を図る。②地区懇談会を中学校の教育活動について理解しあい、交流を深める場として位置付ける。③キャリア教育のまとめとして、3学年の卒業期に実施する「自分を語ろう」で委員が助言者として立ち会う。④創立80周年事業に向けて連携を図る。	①小中ブロックで運営協議会を持つことで、小中一貫教育の充実を図る。②地区懇談会を中学校の教育活動について理解しあい、交流を深める場として位置付ける。③キャリア教育のまとめとして、3学年の卒業期に実施する「自分を語ろう」で委員が助言者として立ち会う。④創立80周年事業に向けて連携を図る。	
ブロック内評価後の気付き	ブロック内評価後の気付き		
学校関係者評価	学校関係者評価		

中期取組目標振り返り	
------------	--

重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
特別活動	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
地域連携	c8		
生徒支援	c9		
学校運営協議会	c10		
ブロック内評価後の気付き	ブロック内評価後の気付き		
学校関係者評価	学校関係者評価		

中期取組目標振り返り	
------------	--